

徳島県スポーツ推進計画

～スポーツで創る！とくしまレガシー～



平成30年3月

徳 島 県

はじめに

スポーツは青少年の体力向上、心身の健康の保持増進をはじめ、スポーツを通じた交流の促進、地域の一体感や活力の醸成など、多様な意義を有しています。

本県では、平成16年に「徳島県スポーツ振興基本計画」、平成25年に「徳島県スポーツ推進計画」を策定し、県民の誰もが主体的に参画できるスポーツ環境を整備するため、各市町村における「総合型地域スポーツクラブ」の設立支援や充実・強化に取り組むとともに、今や「春の風物詩」として定着した「とくしまマラソン」、豊かな自然のもと、サイクリングを楽しむ自転車イベントなどを開催して参りました。また、競技力の向上を図るべく、ジュニア期からの「一貫指導システム」の構築、有望選手を特定の高校に集め指導する「スポーツ指定校事業」、さらには、優れた成績を収めた選手・指導者の功績を讃える「徳島県スポーツ賞」創設など、関係機関の皆様との連携のもと、各種事業に取り組んで参りました。

その結果、総合型地域スポーツクラブは県下に35を数え、本県の児童生徒たちの体力・運動能力も着実に改善しており、平成27年度には、小5女子が「体力合計点」で初めて全国平均を上回る結果となりました。一方、前計画で65%を目指していた「スポーツ実施率」は50%前後で推移するとともに、30位台が目標の「国民体育大会の天皇杯順位」では40位台後半が続いております。しかしながら、昨年の「えひめ国体」では、ライフル射撃で16年ぶりの男女総合優勝を果たすとともに、入賞総数が前年から大きく伸びるなど施策の効果が現れつつあり、この流れを次につなげていく必要があります。

こうした中、本県では、2017年に国内初の「ラフティング世界選手権」、2018年にはアジア初の「ウェイクボード世界選手権」が三好市で開催され、その翌年からは、2019年「ラグビーワールドカップ」、2020年「東京オリンピック・パラリンピック」、さらには、県内でも6競技種目が行われる「ワールドマスタースゲームズ2021関西」と続き、徳島が「5年連続」で国際スポーツ大会の開催地、またはキャンプ地となる絶好の機会となります。

本計画は、この好機にしっかりと対応し、「スポーツ王国とくしま」への歩みをさらに進化（深化）させるとともに、次世代へと受け継がれていく、本県ならではの「スポーツレガシー」を創出するための、今後5年間の基本的な方向性を示しております。

今後、各市町村はもとより、県体育協会や県スポーツ振興財団、各種スポーツ関係団体のほか、大学、企業などとの連携・協働により、本計画に盛り込まれた施策を総合的・計画的に実施し、「スポーツ王国とくしま」の実現を目指して参りますので、県民の皆様をはじめ、関係各位のなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、本計画の策定にあたり、熱心にご審議いただきました徳島県スポーツ推進審議会の委員の皆様、パブリックコメントにおいて貴重なご意見をいただきました県民の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成30年3月

徳島県知事 飯 泉 嘉 門

目 次

第1章 計画の策定にあたって ... 1

- 1 計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 計画の性格・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4 スポーツの意義・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 5 本県スポーツを取り巻く社会の現状と課題・・・・・・ 3

第2章 計画の基本的な考え方 ... 6

- 1 計画の基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 2 計画の基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 3 計画の施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

第3章 施策の推進 ... 9

基本目標1「輝くとくしま」の推進

- 方向性・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 施策の展開・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 施策一覧・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 目標・・・・・・・・・・・・・・ 12

基本目標2「元気なとくしま」の推進

- 方向性・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 現状と課題・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 施策の展開・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 施策一覧・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 目標・・・・・・・・・・・・・・ 17

基本目標3「豊かなとくしま」の推進

方向性・・・・・・・・・・・・・・・・	18
現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	18
施策の展開・・・・・・・・・・・・・・・・	21
施策一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	23
目標・・・・・・・・・・・・・・・・	23

基本目標4「ふれあいとくしま」の推進

方向性・・・・・・・・・・・・・・・・	24
現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	24
施策の展開・・・・・・・・・・・・・・・・	26
施策一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	28
目標・・・・・・・・・・・・・・・・	29

第4章 計画の推進体制

... 30

1 推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・	30
2 役割分担・・・・・・・・・・・・・・・・	30
3 計画の施策目標一覧・・・・・・・・	34

参考資料

... 35

スポーツ基本法・・・・・・・・・・・・・・・・	35
徳島県スポーツ推進条例・・・・・・・・	45
とくしまスポーツ憲章・・・・・・・・	49
徳島県スポーツ推進審議会委員	51



第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

本県では、2004（平成16）年1月にスポーツ振興法に基づく「徳島県スポーツ振興基本計画」、2013（平成25）年3月にスポーツ推進の基本的な方向性を示す「徳島県スポーツ推進計画」を策定し、各市町村及び各スポーツ関係団体と連携を図りながら、「県民の豊かなスポーツライフ」の実現に向け、スポーツに関する施策の総合的な推進に努めてきました。

しかし、本県においては、成人の週1回以上のスポーツ実施率の伸び悩み、国民体育大会（国体）の天皇杯順位^{*1}の低迷、依然として高い糖尿病死亡率など、なお取り組むべき課題が残っています。

一方で、計画策定から5年が経過し、本県を取り巻くスポーツ環境に大きな変化が訪れています。

特に、「東京オリンピック・パラリンピック」をはじめとする大規模な国際スポーツ大会が本県内外で連続して開催され、本県のみならず、日本国中でスポーツへの興味・関心が高まることが期待されます。

これを「スポーツ王国とくしま」の推進と、「明るく活力あるスポーツライフ」の実現の絶好の機会と捉え、さらに魅力的で多岐にわたるスポーツ関連施策を推進するため、新たな「徳島県スポーツ推進計画」を策定することとしました。

2 計画の性格

- （1）本計画は、県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、スポーツを通じて県民の元気を創造する「スポーツ王国とくしま」の推進を目指すための基本的な方向性を示したものです。
- （2）本計画は、「スポーツ基本法」に基づき、本県スポーツ推進の基本的な方向性を示した計画であり、「第2期スポーツ基本計画」を参考に、「徳島県スポーツ推進条例」の趣旨を踏まえ、本県の実情に合わせて策定したものです。
- （3）本計画は、徳島県スポーツ推進審議会の答申「徳島県スポーツ推進計画の策定について（平成30年3月）」、「とくしまスポーツ憲章」及び「新未来『創造』とくしま行動計画」との整合性を図るとともに、徳島県議会での御論議、県民の皆様からの御意見を踏まえ策定しました。

*1 国民体育大会における総合順位のこと。

3 計画の期間

本計画は、2018（平成30）年度から概ね5年間を見通した計画とし、目標年次を2022（平成34）年度とします。

4 スポーツの意義

スポーツは、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む等、人格の形成に大きな影響を及ぼすものです。

また、スポーツは、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであり、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与するものです。

さらにスポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠です。

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災の被災地でのスポーツによる支援活動は、被災者や避難者を元気づけ、希望を与えるなど、スポーツの持つ大きな力や、「社会の絆」の重要性が改めて認識されたところです。

ほかにも、スポーツ選手の不断の努力は、人間の可能性の極限を追求する有意義な営みであり、こうした努力に基づく国際競技大会における選手の活躍は、県民に誇りと喜び、夢と感動を与え、県民のスポーツへの関心を高めるとともに、地域社会に活力を生み出し、地域経済の発展に広く寄与するものです。

このように、スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足や楽しさ、喜びをもたらすというスポーツの内在的な価値とともに、青少年の健全育成や、心身の健康の保持増進、地域社会の再生、活力の創造など多面にわたる価値や意義を持つものです。

2011（平成23）年8月に施行された「スポーツ基本法」においては、こうしたスポーツの価値や意義が明文化されるとともに、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない。」とされたところです。

また、2017（平成29）年3月に策定された「第2期スポーツ基本計画」においては、「スポーツの「楽しさ」「喜び」こそがスポーツの価値の中核であり、全ての人々が自

発的にスポーツに取り組み自己実現を図り、スポーツの力で輝くことにより、前向きで活力ある社会と、絆の強い世界を創る。」とされたところです。

5 本県スポーツを取り巻く社会の現状と課題

とくしまスポーツ憲章の制定

私たちがスポーツ文化に親しんで、生活を豊かに健やかにしていくためには、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じてスポーツに取り組むことが大切です。

スポーツに取り組むということは、スポーツを「する」に加えて、観戦・応援する「みる」、あるいは、ボランティアとしてイベントを「ささえる」、アスリートとして力や技を「極める」など、スポーツがもたらしてくれる喜びや感動を共有することでもあります。

県民をあげて様々な形でスポーツに取り組んでいくことは、私たち一人一人の健康や健全な社会づくりに役立つとともに、本県のスポーツ人口の増加や競技力の向上に役立つと考えます。

そこで県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、スポーツを通じて県民の元気を創造する、全国に誇りうる「とくしまスポーツ王国づくり」の実現を目指して、2008（平成20）年1月24日、とくしまスポーツ憲章を制定しました。

徳島県スポーツ推進条例

スポーツの推進に関し、基本理念を定め、県の責務並びにスポーツ団体、県民及び事業者の役割を明らかにするとともに、スポーツの推進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、スポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施し、もって県民の心身ともに健康な生活及び活力ある地域社会の実現に寄与することを目的として、徳島県議会で制定されました（2014（平成26）年3月20日徳島県条例第43号）。

連続で開催される国際スポーツ大会

「東京オリンピック・パラリンピック」をはじめとする国際スポーツ大会が本県内外で続けて開催されることにより、本県のみならず、日本国中でスポーツへの興味・関心が高まることが期待されます。

地震防災対策

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災を契機として、本県においても切迫する南海トラフの巨大地震に対する防災・減災対策が喫緊の課題となっており、県はもとより各市町村において災害に強いまちづくりに向けた各種施策を展開しているところです。

こうした取組や被災地支援活動を通じて、多くの人々が地域社会の「絆」の重要性やスポーツの持つ力を再認識しました。また、発災時に避難場所や広域応援部隊の活動拠点となるスポーツ施設の整備拡充や安全対策、避難生活の質の向上も必要です。

人口減少と少子高齢化

本県の人口は1950（昭和25）年の88万人をピークに減少傾向にあり、2015（平成27）年10月の国勢調査では75万人、65歳以上の高齢者の割合は約31%と全国平均（約26.6%）を僅かに上回るペースで高齢化が進んでいます。国立社会保障・人口問題研究所の試算によると2020（平成32）年には県民の約3人に1人が高齢者という極めて高齢化が進んだ社会が到来すると予測されています。

また、本県の合計特殊出生率について、2016（平成28）年は1.51と全国平均1.44を上回っているものの、依然として低い状態が続いており、少子高齢化の急速な進行は、経済活力の衰退や地域社会の弱体化など、社会経済の様々な分野に大きな影響を及ぼす可能性が指摘されています。

さらに、核家族化の進行、共働き世帯の増加等により、家庭の教育力の低下が指摘されるとともに、子どもたちを地域で見守る、子育てを支えあうなどの地域社会のつながりの希薄化も懸念されています。

子どもの体力・運動能力の低下

経済や科学技術の発展がもたらした便利で快適な生活や生活様式の変化、また、少子化による遊び相手の減少や遊びの質の変化等により、子どもの運動遊びの機会が減少しています。また、運動をする子としない子の二極化も進んでおり、本県の子どもの体力・運動能力は全国平均より低位の状況にあります。子どもの体力・運動能力の低下は、競技力の低下につながるだけでなく、豊かなスポーツライフの形成を妨げる要因ともなる深刻な問題です。

体力・運動能力を高めるためには、幼児期からの望ましい生活習慣の形成や様々な運動遊びの体験を通じて、運動好きな子どもを育てることが重要であり、健康づくり、体力・運動能力の向上に向けて継続的な取組が必要です。

スポーツ実施率

本県の運動やスポーツを行う成人の割合は50%前後で推移しており、上昇傾向にあるものの前計画において目標としていた65%には達していません。

生活習慣病対策

がん、心疾患をはじめとする生活習慣病による死亡者は、全死亡原因の約6割を占めるなど増加傾向にあり、特に本県においては糖尿病死亡率が全国ワースト1位を脱却した（2014（平成26）年～最新調査（2016（平成28）年））ものの、依然として全国平均を上回っており、生活習慣病対策は重要な課題となっています。

生涯にわたり健康で活力に満ちた長寿社会を実現するためには、普段からバランスのとれた食事、適度な運動、十分な睡眠など規則正しい生活習慣を身に付けることが必要です。

特に壮年期以降においては、健康の維持・増進や健康寿命延伸のために、継続して運動・スポーツに親しむことが重要であり、そのための場所づくり、プログラムづくりなどの環境整備が必要です。

競技力の低迷

少子化の進行による競技人口の減少や、長引く景気低迷の影響等による企業スポーツの休廃部など、様々な要因により、本県の国民体育大会の天皇杯順位は近年40位台後半と低迷しています。本県選手が全国大会や国際大会で活躍し、県民に夢と希望を与えるよう、ジュニア期からの一貫した指導体制の構築や優れた指導者の育成、スポーツ施設の整備など継続的な取組が必要です。

本県スポーツ環境の特性

春の風物詩として年々進化してきた中四国最大規模の「とくしまマラソン」の開催や健康志向の高まりから、普段からジョギングやウォーキングをする方の姿を多く目にします。

また、本県では豊かで美しい自然を活かして、サイクリング、ラフティング、トライアスロン、グラススキー、カヌー、サーフィン、ウェイクボードなどのアウトドアスポーツが盛んであり、古くから本県に根付く「お接待の文化」によりこうしたスポーツイベントを支えるボランティアの方々も着実に増えてきたところです。

さらに、本県は「徳島ヴォルティス」「徳島インディゴソックス」といったプロスポーツチームを有しており、あらゆる世代がレベルの高い競技に身近に触れることができる環境にあり、プロ選手と県民との交流なども行われています。

「四国と近畿の結節点」という本県の地理的優位性を活かし、これらスポーツイベントを通じた交流人口のさらなる拡大や地域活性化の一層の推進が求められています。

加えて、ほぼ全市町村に設置された総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）^{*2}は、地域のスポーツ活動に留まらず、子どもの体力向上や、住民の健康づくりなど、スポーツを通じて「新しい公共」を担い、地域コミュニティの核として、さらには競技スポーツの拠点となることが期待されています。

また、2012（平成24）年4月に開校した鳴門渦潮高等学校は、本県初のスポーツ科学科と最新のスポーツ医・科学機器や充実した施設を有する、本県スポーツの拠点であり、これらを有効活用した競技力向上や指導者育成に取り組んでいます。

*2 その地域の住民が主体となって、自ら運営・管理をする多種目・多志向・多世代のスポーツクラブ。



第2章 計画の基本的な考え方

1 計画の基本理念

「とくしまスポーツ憲章」に基づく4つの基本目標を踏まえ、本県スポーツ推進の基本的な方向性を示す「徳島県スポーツ推進計画」を平成25年3月に策定し、スポーツに関する施策の総合的な推進に努めてきましたが、目前に迫った国際スポーツ大会を契機として、本県スポーツ環境を大きく変革させ、次世代に受け継がれていく本県ならではのスポーツレガシー（とくしまレガシー）を創出し、「新未来『創造』とくしま行動計画」が示す「スポーツ王国とくしま」への歩みを更に進（深）化させるため、新たな計画を策定することとし、基本理念を「県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、スポーツを通じて県民の元気を創造する、全国に誇りうる「スポーツ王国とくしま」の推進」とします。

2 計画の基本目標

この基本理念を具現化するため、前計画にもあった、「とくしまスポーツ憲章」にのった4つの基本目標を継続して用います。

- ・世界にはばたくトップアスリートが育つ「輝くとくしま」の推進
- ・運動好きで健やかな子どもたちが育つ「元気なとくしま」の推進
- ・生涯にわたってスポーツを楽しむ「豊かなとくしま」の推進
- ・親睦や交流の場としてスポーツに親しむ「ふれあいとくしま」の推進

加えて、新しい計画においては、レガシーの創出という観点から、「徳島ならではの」新たな視点を加えた施策の方向性を設定しました。

基本目標1 「輝くとくしま」の推進

スポーツは、人間の可能性への挑戦であり、全力で取り組むひたむきな選手の姿は、多くの県民に大きな夢や感動を与えてくれます。そして、県民の明るく豊かで、活力ある社会の実現に寄与します。そのために、各競技団体や関係機関との連携・協働を図り、ジュニア期からの一貫指導体制づくりに努め、国民体育大会をはじめとする各種全国大会やオリンピック・パラリンピックなどの国際スポーツ大会で活躍できるトップアスリートや指導者が育つ「輝くとくしま」の実現を目指します。

基本目標2 「元気なとくしま」の推進

運動やスポーツは、体力の向上はもとより物事に取り組む意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わっており、心身の健全な発達に大きく寄与するものです。

子どもたちが、学校体育や様々な運動の機会を通して、運動やスポーツの楽しさ、喜びを味わえるようなスポーツライフの基盤づくりに努めるとともに、安心してスポーツ活動が行える環境づくりに取り組みます。

そして、家庭・学校・地域が連携し、運動好きで健やかな子ども達を育成することにより、「元気なとくしま」の実現を目指します。

基本目標3 「豊かなとくしま」の推進

生涯スポーツ社会の実現に向けては、スポーツを「する」ことだけでなく、「みる」「ささえる」と様々な方向からスポーツに参画することが大切です。

そのため、地域スポーツの拠点となる総合型クラブの育成・充実を図るとともに、その機能を最大限に活用し、県民一人ひとりがスポーツに親しめる健全な社会づくりに取り組み、それぞれのライフステージに応じたスポーツ活動を推進し、「豊かなとくしま」の実現を目指します。

基本目標4 「ふれあいとくしま」の推進

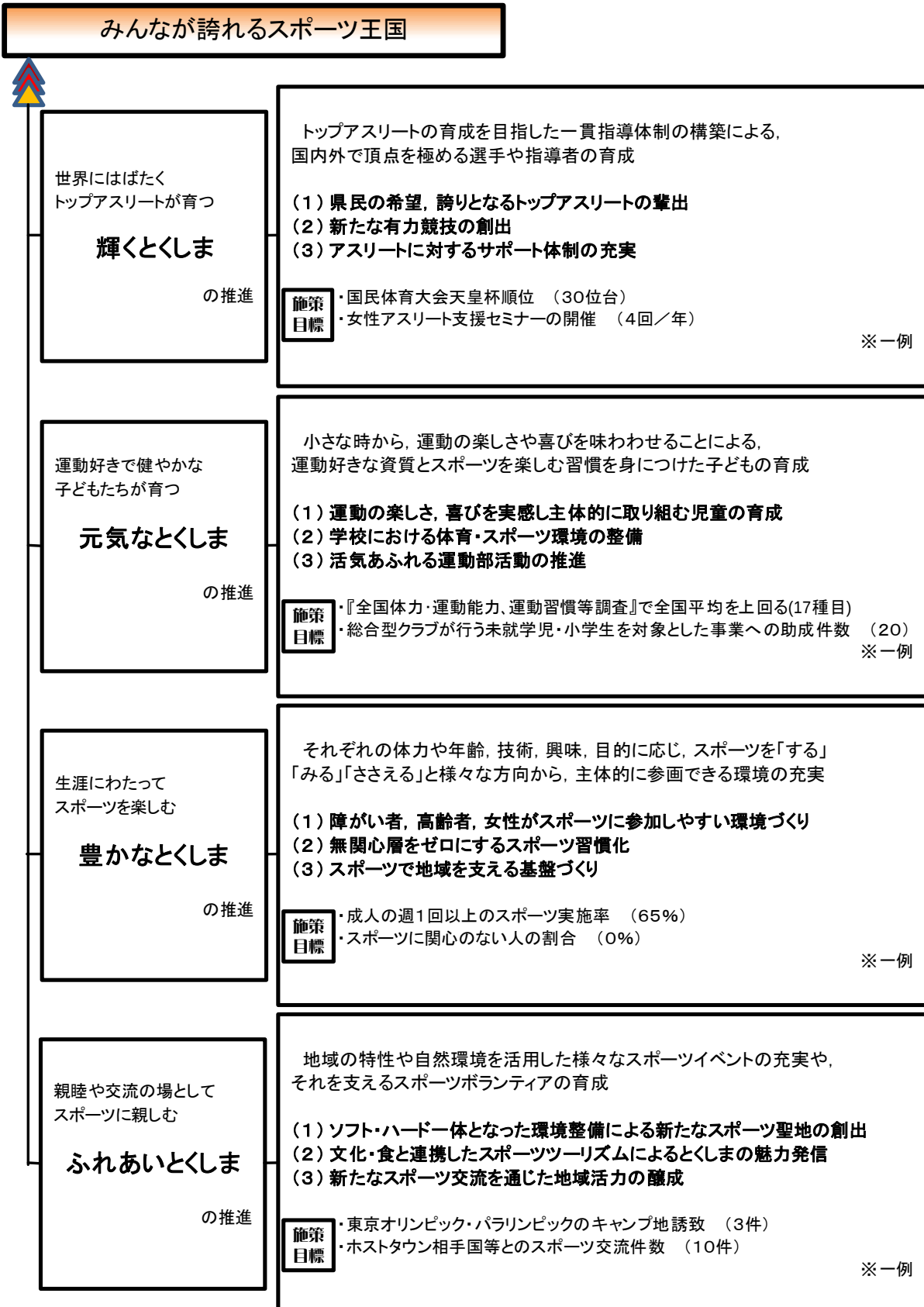
スポーツを手段とした地域づくりは、各地域の特性や自然環境を活用し、地域のにぎわいづくりや楽しみにつながります。

また、大規模でハイレベルなスポーツイベントの開催や地元チームの活躍は、私たちに大きな夢と感動をもたらしてくれます。本県のスポーツを振興するため、国際スポーツ大会でのキャンプ地誘致や大会開催等に取り組むことにより、県民が海外選手とふれあう機会を創出するとともに、プロスポーツ等と連携し、積極的な応援や、本県の魅力発信につながるスポーツボランティアの養成に取り組むことで「ふれあいとくしま」の実現を目指します。

このように、県民をあげて様々な形でスポーツに取り組んでいくことは、私たち一人ひとりの健康や健全な社会づくりに役立つとともに、本県スポーツ人口の増加や競技力の向上に役立ちます。これが、県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、スポーツを通じて県民の元気を創造する、全国に誇りうる「スポーツ王国とくしま」の推進になると考えます。

3 計画の施策体系

「新未来『創造』とくしま行動計画」(中期プラン)





第3章 施策の推進

基本目標1 「輝くとくしま」の推進

世界にはばたくトップアスリートが育つ

「輝くとくしま」の推進

＜方向性＞

1. 県民の希望、誇りとなるトップアスリートの輩出
2. 新たな有力競技の創出
3. アスリートに対するサポート体制の充実

＜現状と課題＞

▶ 国際スポーツ大会への（選手以外も含めた）参加

東京オリンピック・パラリンピックなどの大規模な国際スポーツ大会において、選手、指導者、審判などとして本県から出場・参加する人が増加することにより、スポーツへの関心の高まりや飛躍的な競技力の向上が期待できます。

▶ 国民体育大会（国体）

本県では、国民体育大会の天皇杯順位（男女の総合成績）が、1999（平成11）年度（熊本国体）より40位台と低迷が続いています。

その原因として、少子高齢化、興味・関心の多様化や競争心の希薄化、経済不況等の社会変化による学校運動部競技者数の減少や企業スポーツ休廃部、施設・備品の老朽化等が挙げられます。

このため、競技団体の重点的な強化や、次世代アスリートの計画的・継続的な発掘・育成・強化を行うための「一貫指導体制」の確立を図っていくとともに、専門家によるメンタルトレーニングや講演会等、専門性を有する者（医科学的なサポートも含む）による指導の場を設けることが必要です。

▶ 障がい者アスリート

本県からパラリンピック等障がい者スポーツ大会への出場選手を輩出することで、県民が一丸となって支援・応援し、パラリンピックの機運が盛り上がるとともに、県民の絆を深め活力ある社会を創造することができます。そして、次の世代へも、自己の障がいを乗り越えて限界にチャレンジしていく「勇気」や「希望」を与える機会ともなります。

また、全国障害者スポーツ大会へ本県選手団を派遣することにより、県民の障がい及び障がい者に対する理解を深めることができ、障がい者の社会参加が促進されます。

▶ 企業スポーツ

本県では、多くの企業に属する選手が自立的な活動により活躍しています。また、組織的な活動により陸上競技のオリンピック選手を輩出した企業チームもありますが、このような例はまだ少なく、企業スポーツをより活性化させるためにはさまざまな支援が必要で

す。

▶ アスリートのキャリア形成支援

アスリートのキャリア形成支援は、国や中央の競技団体が進めていますが、本県在住の成年競技者を増やすためには自治体からの支援も必要です。

▶ プロスポーツ

本県は、「徳島ヴォルティス」（サッカー）「徳島インディゴソックス」（野球）という2つのプロスポーツチームを有しており、あらゆる世代がレベルの高い競技に触れることができる環境にあります。これは、競技力の向上において非常に重要なポイントです。



ヴォルタくんとティスちゃん



Mr.インディ

▶ 医科学サポート

医科学サポートスタッフの不足により、指導現場では、手探りで指導が進んでいる例も少なくありません。

アクシデント時の適切な初期対応ができるスタッフの派遣や大会等への帯同を必要としているチームが多くあります。

▶ アスリートのコンディションケア

選手及び指導者が、予防法や対処法を知らずに無理を続けてしまうと、ケガや体調不良などを招き、目標としている大会で高いパフォーマンスが発揮できず、選手寿命を縮めるおそれがあります。

医科学サポートのスタッフだけでなく、コンディショニングを維持するためのスタッフの派遣や大会への帯同を必要としているチームもあります。

▶ 女性アスリート

オリンピックや国体における「女子種目」の追加等、女性がスポーツで活躍する機会が増えてきています。

2020（平成32）年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、代表候補などの女子トップ選手については、JOC・JPC^{*3}等からの支援が強化されていますが、「一般の女子選手」や「その指導者」には、十分な支援が届いていない現状があります。国の支援モデルを参考に、自治体自ら施策を展開していく必要があります。

▶ 鳴門渦潮高校でのフィジカルチェック

鳴門渦潮高校では2012（平成24）年度の開校時から国体選手等を対象にフィジカルチェックを行っており、被測定者へのフィードバックについて好評を得ています。

*3 それぞれ Japan Olympic Committee（日本オリンピック委員会）、Japan Paralympic Committee（日本パラリンピック委員会）の略

＜施策の展開＞

【トップアスリートの輩出と競技力の向上】

- ◇ オリンピック・パラリンピック、デフリンピックへの出場選手輩出を目指し、国際大会や全国大会で活躍が期待される選手に対し、海外遠征費等、競技力の向上に関する支援を行う。
- ◇ オリンピックをはじめとした国際スポーツ大会に審判や運営等で参加できる人材を増やしていくため、中央競技団体で実施される育成・強化事業及び資格取得の選考会や研修会への参加支援を行う。
- ◇ 競技団体が行うふるさと選手^{*4}を活用した合宿や練習会等の強化事業への支援を行う。
- ◇ 直近の国体での実績等に基づき「選択と集中」による、選手強化を図る。
- ◇ 競技力向上に実効性のある備品・消耗品購入等の支援を行う。
- ◇ 全国障害者スポーツ大会へ選手団を派遣することで、県民の障がい及び障がい者に対する理解を深め、障がい者の社会参加を促進する。
- ◇ 企業側、選手側、双方へのサポート方法や体制のモデルケースを創る。
- ◇ 有力な県内企業、大学部活動に対して支援を行う。
- ◇ 若手指導者及び審判員など、スポーツ活動を支える担い手不足解消のための取組を行う企業、大学、競技団体等を支援する。
- ◇ 地域に根ざし、県民から愛される地域密着型のプロスポーツの選手やコーチ、地元企業のスポーツ選手による「スポーツ教室」などを開催する。
- ◇ プロスポーツや地元企業スポーツと競技団体、小・中・高等学校や大学との積極的な交流により、競技力の向上を図る。
- ◇ オリンピック選手やプロ選手等を招へいした講演や講習会等を開催し、県内のジュニア選手が直接指導を受ける機会を設け、競技の普及発展や競技力向上を図る。

【一貫指導体制の構築】

- ◇ 優れた素質を持つジュニア選手の発掘からトップアスリートまで、切れ目のない強化体制を構築するため「競技者育成プログラム」の普及及び一貫指導を実施する体制の整備を図る。また、ジュニアトップ選手に対する支援により県外への流出を防ぐ。

【顕彰制度の推進】

- ◇ 国際大会や全国大会で優秀な成績をあげた選手や指導者の功績を顕彰する。

【医科学サポートの充実】

- ◇ 医科学サポートスタッフが、日頃から現場を訪問し、傷害防止への助言や実際のケア、課題検証や改善策の提案等を行う。
- ◇ ジュニア期からトップアスリートまでのドーピング防止教育・研修活動を推進するとともに、科学的サポートを通じて競技力向上を図る。
- ◇ 専門的な資格を有するアスレティックトレーナー^{*5}を雇用し、各競技団体が行う強化練習や学校部活動、大会等へ派遣することにより、競技環境の向上を図る。

*4 国体において、現住所、勤務地以外に、卒業中学校・卒業高校（どちらか）の所在地が本県にある選手が、本県の代表選手として出場することができる制度。

*5 スポーツ外傷・障害予防、緊急処置、リハビリやトレーニング、コンディショニング等を行う有資格者。

- ◇ 産学民官の連携により、女子選手に対するサポート体制を構築し、女子選手に起こりやすい疾病や傷害について、予防やパフォーマンスを落とさないための対処法に関する知識・情報を取得できるサポートセミナーを開催する。
- ◇ メディカルチェックやフィジカルチェック、メンタルトレーニングを実施し、国体選手のコンディショニング維持と競技力向上を図る。

＜施策一覧＞

◎徳島育ち競技力向上プロジェクト

◎オリンピック選手輩出・国体順位ブレイクスループロジェクト

- 競技スポーツ重点強化対策事業
- オリンピック・国体チャレンジ事業
- 企業・大学スポーツ支援事業
- オリンピック・国体選手育成事業
- 国体バックアップ事業
- スポーツコーディネーター活用事業

◎徳島県スポーツ賞

◎目指せ！オリンピック夢はぐくみ事業

◎あわ女アスリート医科学サポートアシスト事業

＜目標＞

☆東京オリンピック・パラリンピック及びデフリンピックに日本代表として出場・参加できる本県ゆかりの選手、指導者

③③ 14人

☆国体天皇杯順位

③④ 30位台

☆国体入賞数

③④ 個人 ... 45 ③④ 団体 ... 16

☆高校総体（全国大会）もしくは同大会規模での入賞数

③④ 50

☆プロスポーツ選手やコーチなどによる「スポーツ教室」

③④ 200回

☆各学校や競技団体のチームへの医科学サポートスタッフのサポート件数

延べ70件／年

☆女性アスリート支援セミナーの開催

4回／年

基本目標2 「元気なとくしま」の推進

運動好きで健やかな子どもたちが育つ

「元気なとくしま」の推進

＜方向性＞

1. 運動の楽しさ、喜びを実感し、主体的に取り組む児童の育成
2. 学校における体育・スポーツ環境の整備
3. 活気あふれる運動部活動の推進

＜現状と課題＞

▶ 運動する子としない子の二極化傾向

2016（平成28）年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」*6 における調査結果では、本県の児童生徒の体育の授業を除いた1週間の総運動時間や休みの日に運動する時間が全国平均を下回っています。

また、2015（平成27）年度と比べて1週間に420分以上運動している子どもの割合が増える一方で、体育の授業を除いた1週間の総運動時間0分の子どもの割合も増えており（小学5年生女子を除く）、運動をする子としない子の二極化が進んでいます。

▶ 総合型クラブを活用した子どもの運動習慣化

子どもたちが、健やかに成長していくためには、家庭・学校・地域がそれぞれの役割や取組を理解し、また大人が「今、何をすべきか」を考え行動し、地域ぐるみで子どもたちを支え育むことが大切です。

ほぼすべて（91.7%）の市町村に設置されている総合型クラブが、子ども向けや親子で行う定期的なスポーツ教室を開催し、スポーツフェスタのような交流イベントを実施する等、各地域の実情に合わせたプログラムの充実を図り、子どもの運動習慣づくりを一層促進することが必要です。

▶ 子どもの体力向上

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によれば、本県の児童生徒の体力・運動能力は、2016（平成28）年度において、中学2年生は過去最高値、小学5年生は2015（平成27）年度に過去最高値を記録するなど、着実に改善しています。しかしながら、全国と比較すると、2015（平成27）年度の小5女子が体力合計点で初めて全国平均値を上回ったものの、各種目ごとに見ると、まだ全国平均値に届いていない種目が少なく、依然として課題も多くあります。

また、児童生徒の「体力向上」とその土台となる「運動習慣の確立」「望ましい生活習慣の形成」をより一層推進する必要があります。

*6 スポーツ庁が国民の体力・運動能力の現状を明らかにし、体育・スポーツ活動の指導と、行政上の基礎資料とするため、小学校5年生と中学2年生を対象に、毎年実施する体力テスト

体力・運動能力結果（全国平均との比較）

小学校第5学年男子

新体力テスト		握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20mシャトル ランテスト	50m走	立ち幅と び	ソフトボ- ール 投げ	体力 得点 合計
		単位	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	
男子	H28	16.31	18.95	32.38	42.74	49.4	9.49	150.83	22.44	53.24
全国 平均	H28	16.47	19.67	32.87	41.97	51.89	9.38	151.39	22.42	53.92

小学校第5学年女子

新体力テスト		握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20mシャトル ランテスト	50m走	立ち幅と び	ソフトボ-ル 投げ	体力 得点 合計
	単位	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	
女子	H28	16.03	18.01	37.13	40.58	39.04	9.74	144.79	14.22	54.94
全国 平均	H28	16.13	18.6	37.21	40.06	41.29	9.61	145.31	13.88	55.54

中学校第2学年男子

新体力テスト		握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	持久走	20mシャトルランテスト	50m走	立ち幅と び	ハンドボール 投げ	体力 得点 合計
		単位	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(秒)	(回)	(秒)	(cm)	
男子	H28	29.64	25.93	42.65	51.87	405.19	84.28	7.96	195.6	20.81	41.96
全国 平均	H28	28.91	27.46	43.06	51.93	391.72	86.24	8.03	194.7	20.59	42.13

中学校第2学年女子

新体力テスト		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルランテスト	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力得点合計
	単位	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(秒)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	
女子	H28	24.27	21.86	45.53	46.31	302.2	54.53	8.84	168.7	12.88	49.12
全国平均	H28	23.75	23.48	45.46	46.6	288.51	58.8	8.83	168.28	12.85	49.56

▶ 次世代のスターを育てる学校スポーツ施設のレベルアップ

国際スポーツ大会の開催を契機とした、スポーツ施設・環境の整備を行い、県民誰もが「レガシー」を実感できるよう、学校スポーツ施設のレベルアップを図る必要があります。

▶ 新たな有力競技の創出

中学校及び高等学校の競技力向上を図るべく、中学校においては2014（平成26）年度より、高校においては2006（平成18）年度よりスポーツ指定校制度を実施してきました。その結果、全国大会で入賞する競技や安定して活躍する競技も出てきましたが、結果が出ている競技は限られています。新たに活躍が期待できる競技を育成し、運動部活動全体の活性化や競技力の向上につなげる必要があります。

▶ 学校におけるスポーツ時の安全確保

体育、保健体育の授業や運動部活動等、学校体育に関する活動において、様々な事故が起こっています。子どもたちが安心して活動できるような環境や安全面での配慮や工夫が求められています。

▶ 2022インターハイを見据えた運動部の育成

2022（平成34）年には四国ブロックで「全国高等学校総合体育大会」の開催が予定されています。多くの生徒がこの大会に関わるように、高校生のスポーツに対する興味・関心を高める必要があります。

▶ 部活動指導員

2017（平成29）年4月1日より、学校教育法施行規則が一部改正され、部活動指導員の職務等が示されました。その中で部活動指導員に対し、「実技指導」以外に、「部活動の管理運営」や「学校外活動の引率」も認められ、学校における教員の負担軽減等、効率的・効果的な活用が期待されます。

▶ 合同部活動

全国的に、生徒数の減少や運動部活動離れによる部員不足により、単独では試合に出場できない運動部があります。

本県においても、中学校・高等学校の各種大会に複数校合同のチームが出場しています。

中学校では、2003（平成15）年度より県・四国・全国中学校体育大会について、競技は限られていますが、各学校長の判断により、合同チームの編成等で大会に出場することが可能となりました。

高校では合同運動部の大会出場機会を与える方向で検討がなされていますが、全国高等学校総合体育大会が学校単位での出場であるため、その予選も含めて出場できない現状があります。

▶ 障がいのある子どもとスポーツ

障がいのある児童生徒には、一人一人のニーズに応じて適切な運動の機会を保障し、体を動かす喜びを味わったり、スポーツを通して地域等と交流を深めたりすることで、生涯を通じて健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送るための基礎を培う取組が必要です。

＜施策の展開＞

【学校を核とした派遣指導者制度の充実】

- ◇ 小学校1年生から4年生までの児童を対象に、体育授業へのサポート事業等を活用し、学校の課題や運動の苦手な児童に視点をあいた授業を推進し、運動好きの児童を増やす。

【総合型クラブを活用した子どもの運動習慣化】

- ◇ 総合型クラブが市町村等と連携し、学校の体育活動等へのスポーツプログラムの提供や指導者の派遣を行うことにより、子どもを対象にしたプログラムの充実を図り、運動習慣の体得を促進する。また、子どもや保護者の総合型クラブに対する社会的認知度の向上を図る。
- ◇ キッズスポーツインストラクター等の指導者を総合型クラブや保育所、幼稚園、放課後児童クラブ等に派遣し、運動や外遊び等の充実に努める。

【児童・生徒のスポーツ参画機会の拡大】

- ◇ 小・中学校を対象に、各校の課題に応じた体力向上の取組をより一層推進する。
- ◇ 休み時間や家庭でできる運動の提供と継続を支援するとともに、「運動習慣の確立」「望ましい生活習慣の形成」に向けて、保護者への啓発、児童生徒の発達段階に合わせた取組を推進する。

- ◇ ICT^{*7} によるランキングシステムを活用して、友人や家族と一緒に手軽にできる運動を行い、記録向上に向け繰り返し取り組み、運動習慣の確立を図る。（県内公立小・中学校児童生徒（県内特別支援学校の小学部・中学部を含む））

【学校を核とした競技力の向上】

- ◇ トップスポーツ校を指定し、各種全国大会や国民体育大会において活躍できる運動部を育成するとともに、指定されていない競技に対しても支援を行う。
- ◇ 選手の体力測定や、トレーナー・栄養士による診断を行い、それを今後のトレーニングに生かし、パフォーマンスの向上につなげたり、運動能力の優れた小・中学生に対し、様々な競技を体験させることで、新たな競技で活躍する可能性を見だし、競技力の向上及びスポーツの振興・発展につなげる。
- ◇ 2022インターハイを見据え、学校の特色を生かした運動部活動を育成する。
- ◇ 「する」「みる」「ささえる」等のスポーツへの様々な関わり方のなかで、運動部活動への入部率や各種スポーツ大会への参加率を高めるとともに、運動部以外の人たちにもスポーツに関わってもらえるよう、様々な機会を通じて、広報・啓発を行う。
- ◇ 部活動指導員の効率的・効果的な活用を図る。
- ◇ 複数校合同運動部の効果的な運用について、中学校体育連盟を通じ働きかけていく。
- ◇ 高校の複数校合同運動部について、高等学校体育連盟を通じて大会出場の実現に向けて働きかけていくとともに、合同練習の実施を推進し、部員数不足や専門的指導者不足に対応していく。

【学校を核としたスポーツ環境の整備】

- ◇ 「全国トップレベル」もしくは「県内唯一の部活動」がある県立学校を対象として、各学校に設置しているスポーツ施設を公式大会開催や合宿誘致につながるワンランク上の施設となるよう整備し、競技力の向上や競技団体等への一般開放につなげるとともに、防災機能も強化し、地域に根ざしたスポーツ拠点とする。
- ◇ 鳴門渦潮高校のスポーツ拠点校としての機能強化を図り、施設・設備の活用推進を行う。
- ◇ 熱中症の講習会を始めとした、学校事故防止に関する講習会の実施や啓発を行う。
- ◇ 障がいのある人もない人も共に楽しめるスポーツ・レクリエーション活動を通して、スポーツの楽しみや喜びを伝え、子どもが生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、特別支援学校と小・中学校、高等学校及び地域の人々との交流を図る。

＜施策一覧＞

◎体力向上計画の作成（評価）

各学校が作成する「体力向上計画」から県内各校の実態や課題を把握する。

◎はつらつサポート（学校体育指導者派遣事業）

県内小学校の体育授業に指導主事等を派遣し、子どもの実態に応じた体力向上への取組を支援する。

*7 Information and Communication Technology の略。ここではインターネットを利用したランキングのこと。

◎さわやかサポート（運動・生活習慣確立のための指導者派遣事業）

県内幼稚園・小学校・中学校のPTAを対象に講師を派遣し、家庭・地域での体力づくりや健康教育・食育への取組を支援する。

◎体力アップ100日作戦（小学校）

児童が、体力向上と運動習慣の確立、望ましい生活習慣の形成につながる目標を設定し、期間中100日の実施を目指す。

◎プラス1000歩チャレンジ（小学校高学年）

体力向上と運動習慣の確立に向け、歩数計を活用し、取組開始時よりも、平均歩数1000歩増加を目指す。

◎Newキッズ&ジュニアわんぱくランキング（小学校・中学校）

ICTを活用し、ランキングの結果等をホームページで確認しながら、記録の向上にチャレンジし、運動習慣の確立を図る。

◎中学校トップスポーツ競技育成事業

中学校において、「中学校トップスポーツ競技」として競技専門部を指定し、全国大会で活躍できる競技者を育成する。

◎徳島トップスポーツ校育成事業

高校において、「トップスポーツ校」を指定し、効率的・効果的に強化に努める。

◎あわスポーツ・ブルーミング戦略事業

小学校体育連盟、中学校体育連盟、高等学校体育連盟を支援する。

◎渦潮スポーツアカデミー推進事業

鳴門渦潮高校をスポーツ科学の拠点に位置づけ、選手強化と指導者育成に取り組み、本県のスポーツ振興を図る。

＜目標＞

☆運動好きの子どもの割合で全国平均を上回るカテゴリー数

（小学校5年生の男女、中学校2年生の男女、の合計4）

③4全カテゴリー

☆総合型クラブが行う未就学児・小学生を対象とした事業への助成件数

③420

☆小学校5年生、中学校2年生の「運動能力調査」で、全国平均を上回る種目数

③434種目中17種目

☆ICTランキングシステムの参加チーム数

③44,000チーム

☆徳島科学技術高校のアーチェリー、ウエイトリフティング、弓道の3競技施設一体整備

③0整備完了

③1使用開始

☆高校総体（全国大会）もしくは同規模大会での入賞数（再掲）

③450

☆徳島県高等学校総合体育大会の参加率

③455%

基本目標3 「豊かなとくしま」の推進

生涯にわたってスポーツを楽しむ

「豊かなとくしま」の推進

＜方向性＞

1. 障がい者、高齢者、女性がスポーツに参加しやすい環境づくり
2. 無関心層をゼロにするスポーツ習慣化
3. スポーツで地域を支える基盤づくり

＜現状と課題＞

▶ 障がい者のスポーツ参画に向けて

障がい者の体力の維持増強を図るとともに、自立と社会参加の推進を図ることは非常に重要です。また、そうした目的を達成する上で、障がい者がスポーツを通じて、交流を図る機会を持つことは非常に効果的です。

障がい者スポーツの推進体制を整備するため、幅広い関係者の支援により、行政と両輪となって本県の障がい者スポーツの推進母体となる「徳島県障がい者スポーツ協会」を2016（平成28）年に設立しました。



障がい者スポーツ協会設立式の様子

障がいの有無にかかわらずスポーツを行うことができる社会を実現するためには、地域において障がい者が継続的にスポーツに参加できる環境の整備も重要です。本県は、2015（平成27）年度より、障がいの有無、年齢、性別等にかかわらず、より重度の障がい者の参加も含め、地域社会との交流等も踏まえた「出張スポーツ教室」を開催し、障がい者スポーツの普及、促進を図ってきました。また、障がい者の活動・交流拠点である障がい者交流プラザの機能強化により、障がい者スポーツの促進を図る必要があります。

障がい者のスポーツ振興を図るため、様々な競技種目において、大会や講演会・教室等へ障がい者スポーツ指導員の派遣・指導を実施する必要があります。

▶ 生涯スポーツ機運の醸成

「ワールドマスタースゲームズ2021 関西」の開催を契機とし、生涯スポーツの機運を高め、そのレガシーを継承していくための方策が必要となります。

▶ 運動と長寿

高齢者だけでなく、世代間・地域間のふれあいや交流を図り、「ぬくもりと活力のある長寿社会」づくりを推進するため、徳島県健康福祉祭の開催や全国健康福祉祭における選手の派遣等を行っているところですが、更なる参加者の増大を図る必要があります。

▶ 自転車王国とくしま

県内では、２００９（平成２１）年度より「自転車王国とくしま」を掲げ、複数のサイクリングイベントを開催しています。その中には、「自転車王国とくしま」の取組を行う前から続くライドイベントもあります。

イベントの参加者が増えている一方で、観光の要素を取り入れたサイクリングなどの実施により、サイクリストの裾野拡大につなげていく必要があります。



「四国の右下」ロードライド



ツール・ド・にし阿波

▶ サイクリングアイランド四国構想

全国的なサイクリングに対する関心が高まる中、ほかの地域に勝る受入れ環境の整備や情報発信を行い、国内外からの誘客を促進するため四国４県が連携して「サイクリングアイランド四国」の実現を目指す一体的な取組を展開しています。

２０１７（平成２９）年に四国を一周する「１，０００キロルート」を発表しました。今後、定着に向けて連携し取り組んでいきます。

▶ 女性のスポーツ参画に向けて

女性が生涯を通じてスポーツに参画できるよう、女性のニーズや取り組みやすい環境等について現状と課題の洗い出しを行いました。

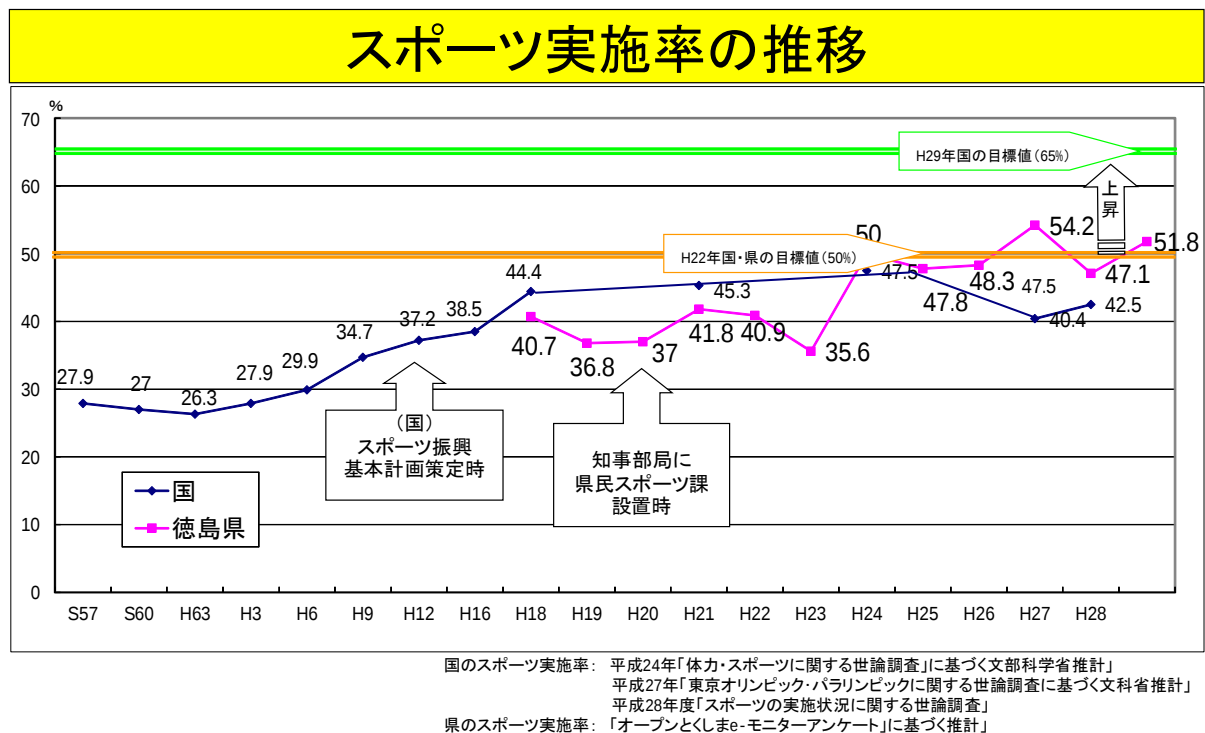
▶ スポーツ実施率

本県の「オープンとくしまeモニターアンケート」*⁸では、週１回以上の運動やスポーツを行う成人の割合は５０％前後で推移しており、上昇傾向にあるものの、前回計画において目標とする６５％に達しませんでした。

*⁸ 本県が行う広聴事業。一般公募、市町村長推薦合わせて２００名で構成され、県政に関するアンケートに回答してもらい、結果を施策や計画などに反映させていこうとするもの。

各人の生活様式も考慮しつつ、定期的な運動やスポーツ習慣の意識づけを図るため、家族や仲間などと気軽に参加や活動ができるスポーツ環境の整備が求められています。

本県における成人の週1回以上のスポーツ実施率の推移



▶ スポーツに参画する機会の確保

すべての県民が自主的に、各々の関心や適性等に応じて、日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむ、スポーツを支える活動に参画できる機会の確保が求められています。

県民が生涯にわたりスポーツに親しむためには、スポーツイベントを展開する各種団体との連携・協働のもと、スポーツに関する効果的な情報発信を行うことが必要です。

▶ スポーツ環境に応じた指導者

スポーツに関わる人材が不足しており、特に、若手指導者の育成が進んでいない現状があります。また、専門性のある指導や普及活動の担い手も不足しています。

子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず、自主的かつ積極的にスポーツに取り組める環境づくりが求められており、それぞれのスポーツ環境に応じた指導者の養成や確保、情報提供の充実が必要です。

▶ 総合型クラブ

県内各市町村において総合型クラブは22市町村で設立されており、本県の市町村数に対するクラブ設立数は全国平均より高くなっています（91.7%）。

また、2014（平成26）年度まではクラブ会員数も順調に増え、県全体で9,141人がいずれかの総合型クラブに所属していました。

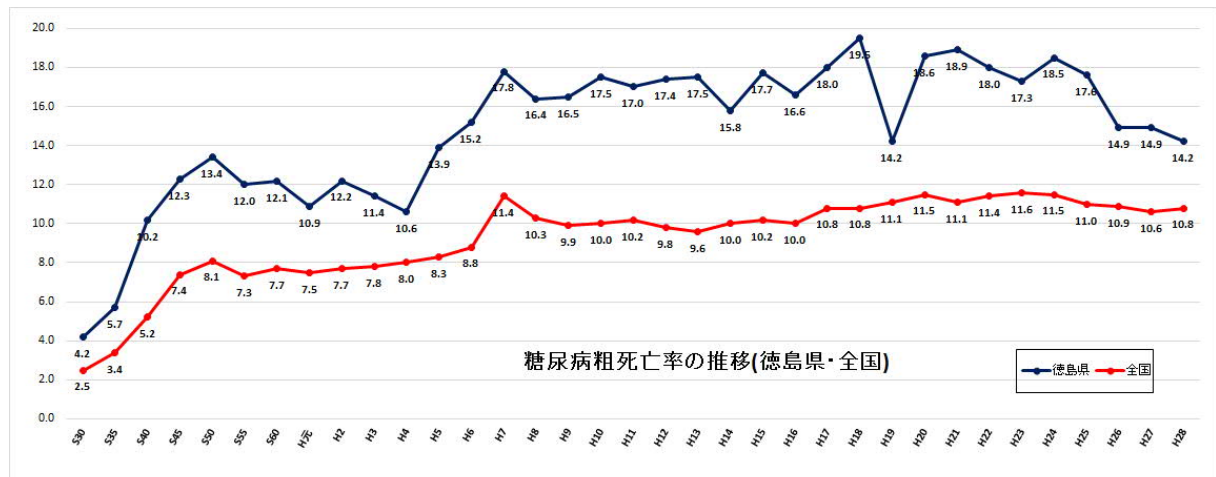
しかしながら現状は、高齢の会員が多く、過疎地域においては総合型クラブまでの移動手段の確保が困難であるため、2015（平成27）年度には県全体で会員減（9,115人）、2016（平成28）年度には若干もちなおしたものの（9,341人）、多くのクラブでは会員減となっていることから、大幅な会員数の増加は望みづらくなっています。

また、独立行政法人日本スポーツ振興センターによる、総合型地域スポーツクラブ活動助成事業の終了後、財源不足が生じる例もあり、外部資金に頼らないクラブ運営へ移行していく必要があります。

今後、各総合型クラブの自主的・主体的な運営に向け、基盤強化を支援していく必要があります。

▶ 運動と健康

本県における糖尿病死亡率は、全国と比較して高い水準で推移しています。糖尿病を始めとする生活習慣病を予防するためには、適切な食生活とあわせて、運動習慣の定着及び運動不足の解消を推進する必要があります。



徳島県の糖尿病粗死亡率の推移

< 施策の展開 >

【障がい者、高齢者、女性のスポーツ参画機会の拡大】

- ◇ 徳島県障がい者スポーツ協会の関係者間のネットワーク形成を図るとともに、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ環境づくりや競技力の向上に取り組み、総合的な障がい者スポーツの振興を図る。また、障がい者の健康増進や社会参加を促進し、障がいに対する県民の相互理解を深め、もって活力ある共生社会の実現に貢献できるよう、協会の運営を補助する。
- ◇ 障がい者のスポーツ振興を図るため、障がい者スポーツ指導員を配置、派遣し、障がい者スポーツへの参加促進や技術力の向上を図る。
- ◇ これまで出張スポーツ教室で取り組んできた、ボッチャ競技の練習成果を発表する場として「レクリエーション・ボッチャ大会」を創設し、障がい者と健常者が共にチームとして参加できる大会として開催する。また、このような障がいのある人とない人が一緒に参加できるスポーツ大会を開催していく。
- ◇ 関西全体のスポーツ愛好家が参加できる、新たな中高年層のスポーツ交流大会「関西シニアマスターズ大会」を関西広域連合構成府県市で開催する（第1回大会は徳島県）。
- ◇ より多くの高齢者が、「徳島県健康福祉祭」や「全国健康福祉祭」等に参加できるよう、競技開催団体との連携を強化するとともに、積極的なPR活動を行う。

- ◇ 女性のニーズや取り組みやすい環境等について国，県内外大学，専門機関等と連携し，女性が生涯を通じてスポーツに参画しやすくなるよう，さらなる調査研究を行い，参画を促す情報の提供や，参画機会を増やす事業に反映させていく。

【スポーツ実施率の向上】

- ◇ 全国に向けて「自転車王国とくしま」のブランドを発信するため，サイクルスポーツを通じた新しい魅力を創り出すとともに，サイクルイベントの充実を通して，県民の運動実施率向上や健康増進，観光・文化の振興，環境対策につなげ，サイクルスポーツ先進県を目指す。
- ◇ 香川県，愛媛県，高知県とともに，「サイクリングアイランド四国」としてサイクルスポーツのブランド化を目指す。
- ◇ 誰もが気軽に始めることができるウォーキングの習慣化や，運動習慣の定着による健康づくりを推進するため，ウォーキングイベントへの参加を促進する。
- ◇ 県民のスポーツへの参加機会の拡大を図り，県民の無関心層をゼロにするため，スポーツをはじめめるきっかけづくりとなるようなスポーツイベントへの助成や，スポーツ・レクリエーションなど，スポーツの普及に向けたイベントの開催，情報発信などを行う。
- ◇ 本県と企業との連携協定に基づき，スポーツイベントにおける企業所属アスリートの活用を図る。
- ◇ スポーツへの関わりを持ちづらい「育児中の女性」や「ビジネスパーソン」などへの運動習慣化メニューを提供する。
- ◇ スポーツに適したファッションでの通勤を推奨する等の取組を通じて，スポーツ参画人口の拡大やスポーツ実施率の向上につなげる。

【総合型クラブの基盤強化】

- ◇ 「スポーツ指導者不足・指導者の資質向上」，「組織体制や財源基盤のぜい弱さ」などの諸課題を解決するために総合型クラブの基盤強化を行うとともに，総合型クラブを活用し「する」「みる」「ささえる」といったスポーツの多様な関わり方へのアプローチを推進する。
- ◇ 各総合型クラブの自主的・主体的な運営を実現するために，法人格の取得を促進する。

<施策一覧>

- ◎ノーマピック・スポーツ大会（徳島県障がい者スポーツ大会）の開催
- ◎障がいのある人とない人がともに参加できるスポーツ大会の開催
- ◎「自転車でひろがる人・まち」づくりプロジェクト
- ◎スポーツアプローチ推進事業
- ◎ Love&Fan!とくしまスポーツ活性計画助成事業

<目標>

- ☆ノーマピック・スポーツ大会（徳島県障がい者スポーツ大会）の開催
 - ③④推進
- ☆障がいのある人とない人がともに参加できるスポーツ大会の開催
 - ③④推進
- ☆県健康福祉祭等のスポーツ及び文化交流大会等参加者数
 - ③④4,800人
- ☆女性アスリート支援セミナーの開催（再掲）
 - 4回／年
- ☆成人の週1回以上のスポーツ実施率
 - ③④65%
- ☆スポーツに関心のない人の割合
 - ③④0%
- ☆総合型クラブの法人取得等の自立を促進
 - ③④12
- ☆ウォーキングイベント参加者数
 - ③④倍増（7,000人）

基本目標4 「ふれあいとくしま」の推進

親睦や交流の場としてスポーツに親しむ

「ふれあいとくしま」の推進

＜方向性＞

1. ソフト・ハード一体となった環境整備による新たなスポーツ聖地の創出
2. 文化・食と連携したスポーツツーリズムによるとくしまの魅力発信
3. 新たなスポーツ交流を通じた地域活力の醸成

＜現状と課題＞

▶ ソフト・ハード一体となった環境整備

日本そして本県において、2019（平成31）年に「ラグビーワールドカップ2019」、2020（平成32）年に「東京オリンピック・パラリンピック」、2021（平成33）年に「ワールドマスターズゲームズ2021関西」が開催されます。

本県のスポーツ施設の多くは1993（平成5）年に開催された東四国国体に向けて整備・改修されたものであり、老朽化が進んでいます。一方で、国際スポーツ大会のキャンプ地誘致や競技会場においては、国際基準の施設整備が求められることがあります。

この機会に、県民誰もが「レガシー」を実感できるよう、スポーツ施設のレベルアップを図り、「ワンランク上の大会の開催」や「スポーツ合宿」の誘致を図る必要があります。

▶ キャンプ地の誘致及び国際スポーツ大会の開催

国際スポーツ大会の開催効果を本県に最大限引き込むため、積極的なキャンプ地の誘致や競技会場の準備を推進する必要があります。

ラグビーワールドカップ2019では、ラグビー強豪国であるジョージアを対象に事前チームキャンプ地誘致に取り組んでおり、東京オリンピック・パラリンピックでは、ホストタウンに登録しているドイツをはじめとした海外代表チームの事前キャンプ地誘致に取り組んでいます。また、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」では本県において公式競技としてカヌー（スラローム）、トライアスロン（トライアスロン／アクアスロン）、ウエイトリフティング、ボウリング、ゴルフの6競技種目の開催が決定し、オープン競技としてマラソン、ラフティング、サーフィン、タッチラグビー、ビリヤードが位置付けられ、大会に向け機運をさらに盛り上げていく必要があります。

▶ 地域のスポーツ拠点

県南部において競技・生涯スポーツの拠点となるスポーツ施設の整備を進めるとともに、県西部において生涯スポーツの拠点及び南海トラフ巨大地震等発災時には防災活動拠点となる施設を整備しています。

▶ 本県における特色あるスポーツ

本県では豊かで美しい自然を活かして、サイクリングのほか、ラフティング、トライアスロン、グラススキー、カヌー、サーフィン、ウェイクボードなどのアウトドアスポーツが盛んであり、スポーツツーリズムにおいても活用することが可能です。

▶ 観光誘客

2011（平成23）年以降の観光入込客数は、増加傾向にあり、特に、イベント参加を目的とした観光入込客数が増加しています。「四国と近畿の結節点」という地理的特性を活かした、県外からの観光客の増加に取り組む必要があります。

▶ 県西部におけるスポーツツーリズムに向けた取組

近年増加している訪日外国人客に向けた新しい観光資源として、ラフティングやウェイクボードの世界大会を契機とした「にし阿波」の自然を活かしたスポーツツーリズムの展開が求められています。

▶ 県南部におけるスポーツツーリズムに向けた取組

2017（平成29）年3月、県南部で体験することができるサーフィン等アウトドアスポーツのカタログ「南阿波アウトドア道場（第4版）」を発行しました。

今後、この冊子を活用し、国内外から誘客を図る必要があります。

▶ スポーツを通じた国際交流

本県は友好交流提携を結んでいるニーダーザクセン州（ドイツ）、湖南省（中国）とのスポーツ交流を実施しています。特にドイツとは板東俘虜収容所、ベートーヴェン第九アジア初演の地という史実から、非常に深い関係にあり、ドイツを対象国としたホストタウンに2016（平成28）年1月、1次登録しました。県内選手の競技力の向上をはじめ、スポーツを通じた国際相互理解を推進するため、今後も交流を進めていく必要があります。

▶ 心のバリアフリーの推進

2020（平成32）年の「東京オリンピック・パラリンピック」の開催に向け、これまで以上に障がい者スポーツに対する理解を深め、機運の醸成を図る必要があります。パラリンピックを県民に幅広く広報・啓発することで、障がい者スポーツに対する理解が一層深まり、誰もが人格と個性を尊重し支え合う「共生社会の実現」が加速されます。

また、国際スポーツ大会では海外から多くの競技者が訪れることが期待されるため、海外競技者に対する県内競技団体や、受入自治体、地域住民の「心のバリアフリー」を推進するとともに、国際スポーツ大会の後には、キャンプ地等で訪れた海外競技者と地域との交流を「レガシー」として継続させていく必要があります。

▶ プロスポーツと県民のふれあい

「徳島ヴォルティス」と「徳島インディゴソックス」の両プロチームは、いまや徳島の誇り、シンボルとして定着し、次代を担う青少年に夢や希望を与えるとともに、県民の活力となっています。

また、県がプロスポーツと地域との連携した取組を支援することは、プロスポーツの活性化とともに、応援の機運の醸成や経済効果、スポーツ人口の拡大にもつながります。

県内外からの、両プロチームのホームゲームへの来場を促進するため、今後もさらなる取組を実施する必要があります。

▶ ふれあう機会の確保

すべての県民がその自主性のもとに、各々の関心や適性等に応じて、日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参画できる機会の確保が求められています。

県民が生涯にわたりスポーツに親しむためには、スポーツイベントを展開する各種の団体との連携・協働のもとスポーツに関する効果的な情報発信を行うことが必要です。

▶ 魅力あふれる情報発信

総合型クラブをはじめ、多くの事業主体は、地域のニーズに応えるべく、魅力的なスポーツイベントを開催しています。県としては、事業の実施を助成するだけでなく、ウェブサイトや、SNS等を利用し、情報発信を行っています。

＜施策の展開＞

【国際スポーツ大会を契機としたレガシーの創出】

- ◇ 国際スポーツ大会のレガシーとして県内スポーツ施設の整備・改修を進めるとともに、一層の利用促進を図る。
- ◇ ラグビーワールドカップ2019や東京オリンピック・パラリンピック等の国際スポーツ大会のキャンプ地誘致活動を展開する。
- ◇ 「ワールドマスタースゲームズ2021 関西」の開催に向け、プレ大会を関係機関と連携のもと実施し、機運醸成を図るとともに、受入体制の構築を図る。
- ◇ 「ワールドマスタースゲームズ2021 関西」で構築したノウハウを各スポーツイベントにフィードバックし、より魅力的な大会を展開するとともに、地元と連携し地域活性化を図る。
- ◇ 通訳ボランティア団体等を活用し、通訳ボランティアの拡大やスキルアップを図り、国際スポーツ大会の受入体制を充実させる。
- ◇ 障がい者トップアスリートが、小・中・高等学校、特別支援学校を訪問し、自身の経験や競技の魅力を伝え、障がい者スポーツの理解を深めるとともに、パラリンピックの機運を盛り上げる。
- ◇ ラグビーワールドカップ2019や東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致対象国と県内の子どもたちとの交流を行う。

【スポーツ施設の整備・拡充】

- ◇ 国際スポーツ大会関連以外の施設についても、競技人口が多く、急務・重点となる施設については先行的な整備を図る。
- ◇ 長寿命化を図るとともに、避難場所や広域応援部隊の活動拠点とされている施設については、防災拠点施設としての機能強化を図る。
- ◇ 県西部において健康と防災の両面から利用できる西部健康防災公園の整備を図るとともに、広大なフィールドや施設の一体的な利活用を促進する。
- ◇ 県南部における生涯スポーツの拠点作りのため、引き続き橘港小勝・後戸地区の緑地においてソフトボール場の整備を図る。また、県南地域においては「健康づくり」と「防災活動拠点」の機能を兼ね備えた拠点として、南部健康運動公園の整備を図る。

【地域の特性や自然を活かしたスポーツの充実】

- ◇ 世界水準の「にし阿波」観光地域づくりの一貫として、ラフティング、ウェイクボードなどを活用したスポーツツーリズムを展開する。
- ◇ 「自転車王国とくしま」のブランド力を県西部での観光振興に生かすため、「ツール・ド・にし阿波」を利用した「にし阿波」振興のためのPRイベントを行う。



- ◇ 本県の魅力発信，県民スポーツの振興，健康増進及び交流人口の増加による地域活性化を図るため「とくしまマラソン」の開催を支援する。

とくしまマラソン大会

【国際スポーツ大会を見据えた本県の魅力発信】

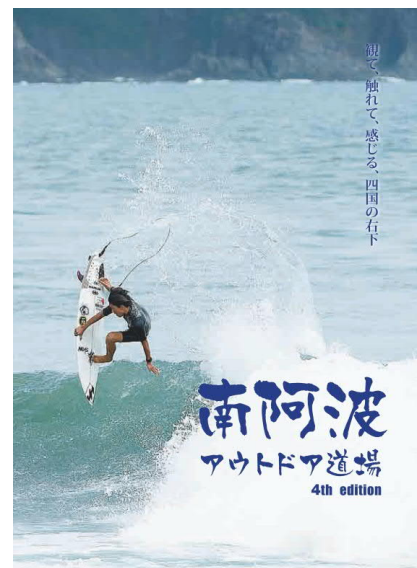


- ◇ 「おどる宝島！パスポート」をはじめとする誘客コンテンツの整備，効果的な魅力発信や旅行商品の造成促進等による「①観光目的客の取り込み」，コンベンション誘致促進による「②ビジネス目的客の取り込み」，「東京オリンピック・パラリンピック」をはじめとする国際スポーツ大会を見据えた「③『訪日外国人4000万人時代』に向けた取組」を核とする戦略的な取組を推進することにより，観光誘客を促進する。

おどる宝島！パスポートチラシ

- ◇ 観光商談会やファミツアー^{*9}などで「南阿波アウトドア道場（第4版）」を，スポーツツーリズム展開の素材集として活用，県南のPRを図り，「四国の右下」をサーフィンやトライアスロン等，アウトドアスポーツのメッカにする。
- ◇ 外国人対応可能な事業者及びプログラムなどの内容を見直し，「南阿波アウトドア道場」冊子の多言語化（英語・繁体字）を行う。

「南阿波アウトドア道場 4th edition」



- ◇ ホストタウンとしての特徴ある取組として，産学官連携組織「東京オリ・パラ『阿波ふうど』でおもてなし協議会」による「徳島ならではの」の「農山漁村」を活用した国際交流を推進する。

*9 familiarization tour の略。観光誘客促進のため，旅行会社などによる現地視察ツアー。

- ◇ 前項の協議会を中心に「GAP^{*10} 取得の推進」「加工品やメニューの開発」「モニターツアーの検討・実施」「オリパラ対応食材の周知」等を計画的に実施する。
 - ◇ ドイツ等と、カヌー、柔道をはじめとするスポーツ分野での交流を実施する。
- 【地域密着型のプロスポーツ等との連携強化】
- ◇ 県民が地元プロスポーツチームを応援することにより、スポーツへの関心や地域の活力、連帯感を高め、プロスポーツ選手と交流することにより、スポーツの楽しさや喜びを体験できる機会を創出する。
 - ◇ 子どもたちへの指導や普及活動等、プロスポーツチームが取り組む地域貢献活動を促進し、子どもたちに夢や希望を与え、青少年の健全育成を図る。
 - ◇ プロスポーツ等の試合による経済波及効果を高めるため、試合会場でのイベントの開催や、施設の整備等を充実し、交流人口の拡大を図る。
 - ◇ 県外の企業や大学等のスポーツ合宿を誘致することにより、県内スポーツ施設、宿泊施設等の利用促進、合宿を通じた交流人口の増加や観光客としてのリピーター確保を図る。
 - ◇ スポーツに対する県民の関心と理解を深め、スポーツへの参加及び支援を促進するための機会を創出する。
- 【情報発信の充実】
- ◇ Love&Fan サイトを媒体とし、総合型クラブ等が実施する魅力あふれるスポーツイベントを広く周知する。
 - ◇ 「自転車王国とくしま」の Facebook により、同取組をはじめ、広くサイクルスポーツ関連の話題やその他の取組を広く周知する。

＜施策一覧＞

◎スポーツ施設の整備拡充・長寿命化

- ①鳴門・大塚スポーツパーク（ポカリスエットスタジアムトラック改修・球技場芝生の改修）
- ②JAバンク蔵本公園（ちょきんぎょプール改修）
- ③県立中央武道館（空調設備・受電設備改修）
- ④南部健康運動公園（陸上競技場の整備）
- ⑤橘港小勝・後戸地区緑地（ソフトボール場の整備）

◎外国語（英語・繁体字）版「南阿波アウトドア道場」の作成

◎「GAP対応」等徳島ならではの「食」のおもてなしの推進

◎4大モチーフを活用したあわ文化の発信

◎「あわっ子文化大使」によるあわ文化体験ツアーの実施

◎「徳島ヴォルティス」ホームタウンデーへの招待の実施

◎「徳島インディゴソックス」ホームゲームへの招待の実施

◎「とくしまマラソン」の開催

◎国際スポーツ大会キャンプ地誘致等推進事業

*10 Good Agricultural Practice（農業生産工程管理）の略。対応することによって、持続可能性の確保、競争力の強化、品質の向上、農業経営の改善や効率化、消費者や実需者の信頼の確保が期待される。

＜目標＞

☆東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致

③② 3件

☆ホストタウン相手国等とのスポーツ交流件数

③① 10件（累計）

☆ラグビーワールドカップ2019事前キャンプの誘致

③① 受入れ

☆国際スポーツ大会の誘致対象競技をはじめとした施設の利用環境の向上

③④ 推進

- ・「とくしまカヌー・レガシーセンター」の整備・利用促進
- ・鳴門・大塚スポーツパーク球技場芝生の改修
- ・JAバンク蔵本公園ちょきんぎょプールの改修
- ・県立中央武道館空調等の整備
- ・橘港小勝・後戸地区の緑地整備
- ・西部健康防災公園の整備
- ・南部健康運動公園の整備
- ・既存のスポーツ施設の長寿命化・防災機能の強化

☆徳島ヴォルティスホームタウンで年間招待者数

③④ 2,000人

☆徳島インディゴソックスホームゲーム年間招待者数

③④ 2,000人



第4章 計画の推進体制

1 推進体制

県は、基本理念・基本目標の実現に向け、市町村、市町村教育委員会、県体育協会、県スポーツ振興財団、競技団体、総合型クラブほかスポーツ関係団体、県内大学・企業などとの連携・協働により、本計画に盛り込まれた各種施策を効果的・効率的に実施します。

さらに、徳島県スポーツ推進審議会を定期的開催し、基本目標ごとに掲げた施策目標の達成状況の評価を行います。

2 役割分担

(1) 行政の役割

①県の役割

- ・市町村で行うのが困難な広域的事業を実施し、市町村等への助言・支援を行います。
- ・地域の実情に応じた独自性のあるスポーツへの取組を支援します。
- ・県内外に向けてスポーツのイベントや施設の情報を発信します。
- ・スポーツ関係団体や企業、プロスポーツ、大学と連携・協働を図り、人材の交流やスポーツ医科学等の知識普及について、全県域での展開を図ります。

②市町村の役割

- ・国の「スポーツ基本計画」、県の「徳島県スポーツ推進計画」を参酌して、地域の実情に即したスポーツの推進に関する計画を策定することが求められています。
- ・住民のスポーツに関するニーズを把握し、地域のスポーツ団体や関係機関と連携しながら、住民がスポーツに親しむために必要な環境を整備し、体制を整えることが求められます。このことから、スポーツに関する団体等が一堂に会する場を設定するなどの調整・推進役を担うことが求められます。
- ・地域において熱意と能力があり、効果的に連絡調整できる者を、スポーツ推進委員として委嘱し、その資質向上のための研修の充実を図ることが期待されます。
- ・地域の実情に応じて、公共スポーツ施設の指定管理者として総合型クラブを積極的に活用することが期待されます。
- ・地域の特色を活かした競技会の開催や地元選手の育成・強化・応援、国際大会や全国大会で活躍した選手等を表彰することによる、スポーツを通じた地域の活性化が期待されます。

(2) 教育機関等の役割

①幼稚園・保育所の役割

- ・幼児期から体を動かした遊びに取り組む習慣や望ましい生活習慣を身につけさせるための取組を行うことが求められます。

②小・中・高等学校の役割

- ・学校施設を地域に開放して、地域のスポーツ活動の場として提供することが期待されます。
- ・子どもにスポーツの楽しみや喜びを伝え、子どもが生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育むことが求められます。
- ・運動部活動においては、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力を得られる体制づくり、社会体育施設や社会体育関係団体等との連携が求められます。

③大学の役割

- ・行政や企業、県体育協会や他の教育機関との連携により、スポーツ医科学研究や人材の交流、施設の開放等に取り組むことが期待されます。
- ・学生によるスポーツボランティア活動等の地域貢献活動を支援することが期待されます。

(3) スポーツ団体等の役割

①スポーツ関係団体の役割

＜競技団体＞

- ・県体育協会と連携し選手の強化、指導者の資質向上を図ることや、各競技の普及に努めることなどが期待されます。
- ・プロスポーツや企業、大学等と連携し、ジュニア期からの一貫した指導体制を確立していくことが期待されます。
- ・トップアスリートや優れたスポーツ指導者等を総合型クラブや地域のスポーツクラブ、学校等へ派遣することが期待されます。
- ・スポーツ指導者の養成及び資質の向上を図るための講習会等に取り組むことが期待されます。
- ・各団体が有するスポーツ指導者情報を広域スポーツセンターへ提供し、団体間の共有化を図っていくことが期待されます。
- ・団体運営の透明性の確保を図っていくことが期待されます。
- ・選手の将来的なキャリア形成にも配慮した適切な支援に努めることが期待されます。

＜県体育協会＞

- ・競技団体を統括する団体としての役割を踏まえ競技団体の競技力向上及び運営の透明性の確保を図っていくことが期待されます。

＜県レクリエーション協会＞

- ・広く県民のスポーツ・レクリエーション活動のニーズに対応するため、指導者の育成と研修や様々なプログラムの展開、情報の収集と提供が期待されます。

＜県障がい者スポーツ協会＞

- ・障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ環境づくりや競技力の向上に取り組むことにより、総合的な障がい者スポーツの振興を図り、障がい者の健康増進や社会参加を促進するとともに、障がいに対する県民の相互理解を深めることが期待されます。

＜スポーツ少年団＞

- ・スポーツとの多様な関わり方の場の提供とともに、教育機関との連携等を通じて、中学生や高校生等の地域スポーツへの参加を促進する取組を行うことが期待されます。

＜小・中・高等学校体育連盟＞

- ・主催する大会等について、県や市町村と協議しながら総合型クラブで活動する生徒等の参加を認めたり、地域スポーツクラブの大会との交流大会を実施したりするなど、柔軟な対応が図られるよう検討することが期待されます。

＜県スポーツ振興財団＞

- ・広く県民のスポーツやスポーツ・レクリエーション活動のニーズに対応するため、指導者の養成と研修や様々なプログラムの展開、情報の収集と提供が期待されます。

＜県スポーツ推進委員連絡協議会＞

- ・スポーツ推進委員が市町村のスポーツ推進のための事業の実施にかかる連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導及び助言を行うため、スポーツ推進委員の資質の向上に努めることが期待されます。

＜総合型クラブ・地域のスポーツクラブ＞

- ・子どもと保護者・家族が、異年齢の子どもや多世代の大人とともにスポーツに親しむことができるよう、幅広い世代の参加者を確保したクラブ運営が期待されます。
- ・スポーツ指導者に対し、学校の体育に関連する活動に対する理解の促進を図ることが期待されます。
- ・地域住民が主体的に取り組み、スポーツ活動を推進することにより、地域のコミュニティの核として充実・発展していくことが期待されます。

②プロスポーツや企業スポーツの役割

- ・スポーツ教室の開催や指導者としての地域への派遣のほか、社会貢献活動による地域との共生を目指した活動が期待されます。
- ・観光振興の大きな資源となり、試合観戦などで交流人口を拡大させるとともに、地域経済を活性化させることが期待されます。

(4) 県民の役割

①県民に期待される役割

- ・県民一人一人が生涯にわたりスポーツに主体的に取り組み、健康で豊かな生活を送ることが期待されます。
- ・県民一人一人が地域のコミュニティの一員として、スポーツを通じて自らも地域社会を構築していくことが期待されます。

②企業に期待される役割

- ・地域社会の一員として、スポーツ振興を通じて利益を地域に還元することは、社会的にも意義のあることであり、企業価値の向上に欠かせないものであることから、企業の「社会貢献」「地域共生」の観点からスポーツへの支援が期待されます。

3 計画の施策目標一覧

【輝くとくしま】の推進		
施策内容	現状	目標
東京オリンピック・パラリンピック及びデフリンピックに日本代表として出場・参加できる本県ゆかりの選手、指導者	—	㉓14人
国民体育大会天皇杯順位	㉔46位	㉓30位台
国民体育大会の入賞数	(個人) ㉔33 (団体) ㉔2	(個人) ㉓45 (団体) ㉓16
高校総体（全国大会）もしくは同規模大会での入賞数	㉔40	㉓50
プロスポーツ選手やコーチなどによる「スポーツ教室」	㉔185回	㉓200回
各学校や競技団体のチームへの医科学サポートスタッフのサポート件数	—	[毎年]延べ70件
女性アスリート支援セミナーの開催	—	[毎年]4回
【元氣なとくしま】の推進		
施策内容	現状	目標
運動好きの子ども割合で全国平均を上回るカテゴリー数（小学校5年生の男女、中学校2年生の男女、の合計4）	㉔3	㉓全カテゴリー
総合型クラブが行う未就学児・小学生を対象とした事業への助成件数	㉔9	㉓20
小学校5年生、中学校2年の「運動能力調査」で、全国平均を上回る競技数（全34種目中）	㉔12種目	㉓17種目
ICTランキングシステムの参加チーム数	㉔3,343	㉓4,000
徳島科学技術高校のアーチェリー、ウエイトリフティング、弓道の3競技施設一体整備	—	㉓整備完了 ㉓使用開始
高校総体（全国大会）もしくは同規模大会での入賞数（再掲）	㉔40	㉓50
徳島県高等学校総合体育大会の参加率	㉔48.3%	㉓55%
【豊かなとくしま】の推進		
施策内容	現状	目標
ノーマピック・スポーツ大会（徳島県障がい者スポーツ大会）の開催	㉔開催	㉓推進
障がいのある人とない人がともに参加できるスポーツ大会の開催	—	㉓推進
県健康福祉祭等のスポーツ及び文化交流大会等参加者数	㉔4,187人	㉓4,800人
女性アスリート支援セミナーの開催（再掲）	—	[毎年]4回
成人の週1回以上のスポーツ実施率	㉔47.1%	㉓65%
スポーツに関心のない人の割合	—	㉓0%
総合型クラブの法人取得等の自立を促進	㉔8	㉓12
ウォーキングイベント参加者数	㉔3,500人	㉓倍増
【ふれあいとくしま】の推進		
施策内容	現状	目標
東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致	—	㉓3件
ホストタウン相手国等とのスポーツ交流件数	㉔4件	㉓10件（累計）
ラグビーワールドカップ2019事前キャンプの誘致	—	㉓受入れ
国際スポーツ大会の誘致対象競技をはじめとした施設の利用環境の向上	—	㉓推進
「とくしまカヌー・レガシーセンター」の整備・利用促進 鳴門・大塚スポーツパーク球技場芝生の改修 JABANK蔵本公園ちょきんぎょプールの改修 県立中央武道館改修等の整備 橋本小・後戸地区の緑地整備 西部健康防災公園の整備 南部健康運動公園の整備 既存の体育施設の長寿命化・防災機能の強化		
徳島ヴォルティスホームタウンデー年間招待者数	㉔1,732人	㉓2,000人
徳島インディゴノックスホームゲーム年間招待者数	㉔1,655人	㉓2,000人